



寒河江市における 認知症高齢者見守り 事業の展開



寒河江市イメージキャラクター
チェリン

認知症サポーター：4711人
認知症にやさしいお店登録：96店舗
H30年6月末現在

寒河江市の概要



人口	41,313人
65歳以上高齢者数	12,727人
高齢化率	30.8%
日常生活圏域	1か所
地域包括支援センター	直営1か所
認知症カフェ	委託2カ所
認知症初期集中支援チーム	1チーム 精神科病院委託
平成30年4月1日現在	



さがえ無事かえる協力ネットワーク事業

1. 直接支援

- ・「無事かえる」支援事業

2. 地域見守り支援

- ・認知症サポーター養成講座
- ・「どさ、いくなやっす？」ひと声運動
- ・認知症はいかい声かけ訓練

3. 緊急支援

- ・やまがた110ネットワーク

やまがた110ネットワークに連絡
山形県警 寒河江市

徘徊のある認知症の方に手助けを!

[さがえ無事かえる協力ネットワーク事業]にご協力ください!

認知症の方が、徘徊や迷子で行方が分からなくなったとしても、自分の家に「無事に帰る」ことができるよう地域ぐるみで見守り、サポートしていきましょう。

ネットワークイメージ

認知症の方の緊急対応・支援

寒河江警察署

やまがた110ネットワーク配信

発見連絡

認知症の方のご家族

行方不明届出

「無事かえる」支援事業登録

ご本人の引き渡し

認知症介護支援

認知症の方への連携支援

「無事かえる」支援事業登録者の情報共有

寒河江市高齢者支援課

取り組み協力

認知症見守り事業の取り組み

- ・認知症サポーター養成講座
- ・「どさ、いくなやっす？」ひと声運動
- ・認知症はいかい声かけ訓練 など

ネットワーク協力の皆さん

- ①「やまがた110ネットワーク」の受信登録
- ②メールを受信したら、できる範囲で早期発見の協力(「どさ、いくなやっす?」ひと声運動の実施)
- ③発見したら、寒河江警察署へ連絡 ☎0237-83-0110 もしくは110番

かもしくん

やまがた110ネットワーク登録方法

- ①まずは、yp1@ox03.asp.cuenote.jpに空メールを送信してください。
- ②折り返し、登録方法を案内するメールが届きますので、画面の案内に沿って登録してください。

※その際、情報種別は【行方不明者手記情報】を、地域種別は【寒河江警察署】を選択してください。(その他も登録できます。)

やまがた110ネットワークとは…
山形県警から、電子メールで安全安心情報を提供するネットワークです。どなたでも無料で登録することができます。詳しくは、山形県警察ホームページをご覧ください。

やまがた
110
ネットワーク

この事業のお問合せは… 寒河江市高齢者支援課 ☎0237-86-2111 内線 623

取組みに至るきっかけ

○冬場の認知症の方の徘徊による死亡事故

→係全員胸が痛んだ。市として、包括Cとして、何か考えないと…

○警察署からの保護ケース連絡で見えてきた事実

- 名前も言えない意思疎通困難な重度の認知症ケース
→市、包括Cには介護情報はまったくなかった高齢者夫婦世帯
- 名前は旧姓、住所は隣町の実家を答え、家族への引き渡しに時間を要したケース
→包括C相談歴あり、介護認定は受けていたが家族見守りで生活は安定していた

○対応の限界

- どちらも認知症の症状がみられる高齢者夫婦世帯、2人ともそれぞれに道に迷うことがたびたび続いた。電話での受け答えは取り繕えるため、遠方の家族は認知症と理解できない。金曜日の夕暮れに、とうとう夫婦で一緒に徘徊してしまった。
→いなくなったことに気づく家族がいない！

➡埋もれていた事実と盲点から、警察行政と市町村行政の連携を考えることに

1. 直接支援

願いは1つ、無事に帰って欲しい

「無事かえる」支援事業

H25/12/16~

【事業化の背景】

緊急支援と日常支援の連携が見える化

- 警察署の対応と日常の介護支援をタイムリーに結びつけることはできないか
- 家族まかせの認知症介護になっているのではないか
- ケアマネジャーまかせの認知症介護相談になっているのではないか

【内容】

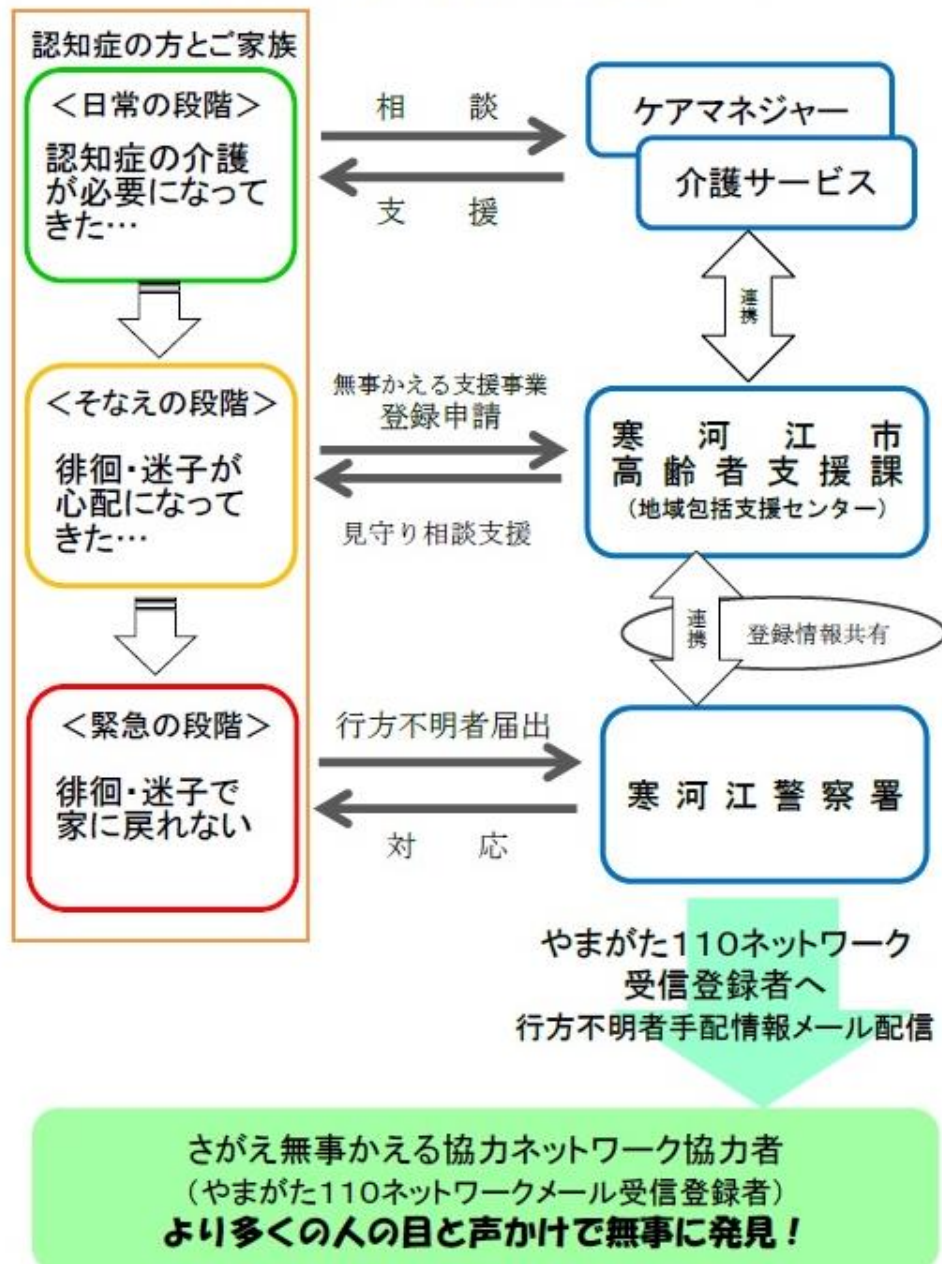
- 本人の情報登録（住所、氏名、旧姓、行動の特徴、写真等）
- 見守りグッズの配布（アイロンプリントシール、ネームシール等）
- いざというときの行方不明届出のしかたをアドバイス
- 介護の工夫の見直し・アドバイス

登録状況（平成30年6月末現在）

登録実人数：113人 延べ人数：188人

※登録がすべてを解決する訳ではない！

「無事かえる」支援事業の活用イメージ



登録時における地域包括支援センター訪問で行っていること

- 登録情報の聞き取り → 登録のためだけでなく生活状況アセスメント
- 写真撮影 → 直近の写真を登録するために
- 見守りグッズ活用アドバイス → すぐ活用してもらえるように
- 介護サービスの使い方、見守り方のアドバイス → ケアマネジメント支援



←シール貼り方を実演指導
もらっただけで安心し、貼るのは
「そのうちに」となるのが人の心理



↑靴には名前と反射材
「履き間違いされないように貼りま
しょう」等本人に安心感を与える説
明の工夫



↖カードタイプ
なくしてもいいように数枚作成

↑お勧めは、この**チラ見え貼り**

2. 地域見守り支援

かけて欲しい言葉をそのまま運動に！

「どさ、いぐなやっす？」 ひと声運動

H26.8月～

【背景】警察署現場対応のつぶやき

- ここまで歩いてくる間に、多くの車がか
通って目にしていたらうに
- 誰かが声をかけてくれていれば、こんなに
遠くまで徘徊せずにすんだらうに

→多くの人に関心を持ってもらい、声かけの
協力を呼びかけよう！



認知症サポーターの金
融機関前で啓発活動←

H26/5/11放送の「NHKスペシャル」で、徘徊が一気に社会
問題化。取材、問合せ殺到で啓発の追い風に

寒河江市認知症高齢者見守り・「無事かえる」支援事業推進プロジェクト

「どさ、いぐなやっす？」ひと声運動 徘徊する方の安全を守る声かけのお願い!

認知症の方が、自分の家に、“無事に帰る”ことが
できるよう、気がかりな方を見かけたら、ちょっとした
ひと声をかけるご協力をお願いします。



認知症の症状である徘徊は、命の危険を伴っています!



- 徘徊中の認知症の方は、普段答えられることも答えられず、自
ら道をたずねたり、助けを求めることもできなくなります。
- 声をかけてもらえないと、どこまでも歩いて行ってしまい、そ
の範囲は何キロも離れた市外まで行ってしまふことも少なく
ありません。
- 昼夜関係なく、また雨や雪であつてもかまわずに、歩いてしま
います。

こんな方を見かけたら…、ちょっと“ひと声”かける勇気を!

- 地域では見かけない高齢者が、ウロウロ、キョロキョロ、
ソワソワと不自然に歩いている。
- バイパスなどをひたすら歩いている。
- 散歩、ウォーキングとは思えない様子で歩いている。
- 道路の縁石などに、長い時間座り込んでいる。
- 季節や気温に合わない服装で歩いている。 等々



徘徊する方は、自らSOSを求めることができません。
「こんにちは」「どさ、いぐなやっす?」「大丈夫だがつす?」
などのひと声と、連絡などのご支援をお願いします!

相談窓口

◆寒河江警察署
☎83-0110

◆寒河江市地域包括支援センター
☎86-2111 [内線623]
(寒河江市健康福祉課内)



とはいっても、
声をかけるなんて勇気がいること…

→ひと声かける勇気を養おう！ 認知症はいかい声かけ訓練 の実施

年度	概要	参加者
H26	・初開催(9/25)	107人
H27	・行方不明者情報メール配信『やまがた110ネットワーク』を活用した訓練開始(7/30) ・町内会と小規模多機能施設が自主開(10/12)	10人 35人
H28	・広域連携を発信、隣町と同日開催(11/16)	72人
H29	・自動車学校全面協力開催(11/13)	90人

<訓練の成果>

- ・「今後、声かけはできそうですか？」体験アンケート回答→人助けになるなら勇気を出して、声をかけてみようと思う(9割)、できるか分からないが、常に意識しておこうと思う(1割)
- ・訓練数か月後、参加者が実際に声をかけて認知症の方を無事保護！

「どさ、いくなやっす？」ひと声運動

声のかけ方ポイント

1. まずは、様子を確認しましょう。
↓なんか気がかり…

2. 声をかけてみましょう。
※認知症の方は、道に迷っていることを人に知られたくないと思っていたり、自分でなんとかしようと一生懸命でいたりする場合もあるため、会話は何事もないような受け答えをする可能性もあります。声をかけながら、様子も確認しましょう。

ステップ1: まずは軽いあいさつ
(例)「こんにちは～」、「いい天気だなっす」
↓様子がやっぱり気がかり…

ステップ2: 徘徊や迷子になっていないか状況の確認
(例)「どっから、ござたなやっす?」、「どさ、いくなやっす?」
↓様子がどうもおかしい…


ステップ3: 本人情報確認の質問
(例)「家はどごやっす?」、「名前教えてくれますか?」
↓この様子、このままにしておけない!

3. 警察署への連絡などの対応をしましょう。

- ①まずは、本人を安全な場所で休ませてあげましょう。
- ②本人の話などから連絡先の情報が分かったときは、連絡してあげましょう。
- ③分からなかったときは、警察署に連絡し助けを求めましょう。

もしも…、声をかけた相手が、はいかい(認知症)の心配がない方だった場合は、
「気づけでなっすっ」、「ご苦労様だなっす」など、
明るくあいさつをかわしましょう。

寒河江市地域福祉計画の基本理念は、
“互いに声かけ支えあう 笑顔あふれるまち寒河江”です。
その取り組みへのご協力もお願いします。



声かけ訓練の様子



さらなる啓発の取組み

訓練の成果あり→声かけの意識を忘れないでほしい！

- ・雪降る冬場の徘徊は命取り
- ・夏場も熱中症が心配
- ・雪解けの春は保護が増える
- ・ニュースでしか、人はその事実を知る機会がない

→実際にあった場面を歌詞にオリジナルソング制作
(H26年12月 認知症サポーター養成講座&フォローアップ講座で初披露)

→認知症サポーターは、声かけサポーターに！講座で必ずお願い「ひと声かけて人助け」

H27年度CD化



認知症はいかい声かけソング 「どさ、いぐなやっす？」

1 番

(どさ、いぐなやっす)

こんな雨なか こんな雪なか

どっから来たなや どこさ行くなや
(どこさ行くなや)

気になる気になる にんちしょう
ひと声かけて 人助け
どさ、どさ、 どさ、どさ、

「どさ、いぐなやっす？」

(どさ、いぐなやっす)

どさ、どさ、 どさ、どさ、

「どさ、いぐなやっす？」

2 番 **こんな朝方 こんな夜**

3 番 **真冬にサンダル？**

真夏にセーター？

4 番 **道の真ん中 わき目も振らず**

5 番 **ひとけない道 キョロキョロ歩く**

6 番 **ここはバイパス どこまで歩くの**

7 番 **こんなところに 座り込み**

作曲・歌・演奏：大沼広美（寒河江市在住）コーラス：寒河江警察署員
●使用取扱要綱も整備（寒河江市外全国の市町村でも啓発に使ってもらえるようにしています。※方言部分を変更可能、楽譜とCDを提供）

3. 緊急支援

いざという時は、ためらわずおまわりさんの力を借りよう！
いざという時のための手助けは、この受信登録から！

やまがた110ネットワーク

○やまがた110ネットワークとは…

山形県警察から、登録者の携帯電話やパソコンに対して電子メールで安全安心情報を提供するネットワーク



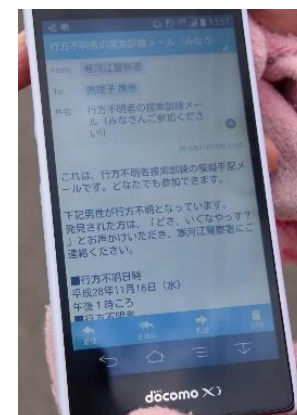
登録を選択

【情報種別】

1. 事件手配
2. 特殊詐欺発生
3. 不審者情報
4. **行方不明者手配**
5. 交通安全情報
6. 交通障害情報
7. 防災情報
8. ポリスインフォメーション

【地域種別】

- 情報は県内14警察署の管轄地域ごとに区分して配信



警察署との連携について数々の対応例からの課題分析

警察署	徘徊等で保護した方の家族への助言指導は、その都度、間違いなく行っている。「医者に行くように」、「介護の相談に行くように」
市町村	家族等から相談があれば地域包括支援センターにて個別に対応している。そのときに、「実は警察のお世話になって」と保護されたことを聞くときもある。

➡それぞれが間違いなく対応はしている。

しかし、警察署の助言どおりに受診や相談に繋がらない現実がある。

本人の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・ どれも悪くない ・ 医者には行かない ・ 世話なんか受けたくない <p>→認知症の人は、自尊心を守るに必死。</p>
家族の気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本人はイヤだと言うし、しかたないか ・ 相談はそのうちでいいか ・ 介護の相談と言われても、何をしたらいいかわからないし ・ 警察沙汰を知られたくない

➡家族は警察からの連絡には慌て駆けつけるけれど、喉元過ぎれば熱さを忘れる。

家族が市役所（包括C）へ相談に来るのは、大抵よくよく困ってから。

本人の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談に繋がらないと、適切な支援を受けられない ・ また徘徊、迷子、そしてまた保護 ・ 症状の悪化（家族への抵抗、昼夜逆転、夜中の徘徊など）
家族の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疲れ、あきらめ、悩みの抱え込み、体調不良 ・ 本人を叱る ・ 家族仲がぎくしゃく ・ 開き直り

➡本人も家族も孤立状態に陥る

警察署は緊急を支援するところ⇔市は日常を支援するところ

対応のスピードも勝手も違う、聞きなれない専門用語等々
どうすれば、連携はうまく行くのか、顔の見える関係になれるのか？



寒河江警察署にお願い

- 家族への助言の言い換え、寒河江市に連絡するひと手間をお願い

「寒河江市の担当者に連絡しておくので、相談に乗ってもらってくださいね。」

→このひと言があると市が関わりやすくなる。

寒河江市では

- 連絡を受けたら、間をおかず日常生活の相談対応
「寒河江警察署の担当の方からご連絡をいただきました。このたびは大変でしたね」と、こちらから家族に連絡を入れ、すみやかに必要な支援につなぐ。
- 相談対応結果は、その都度寒河江警察署生活安全課にも連絡

そのくりかえしの結果

- 警察署の方々に、認知症支援の実際を知っていただけるようになった。
- やりとりの積み重ねで、お互いに付き合い方（連携協力の仕方）がつかめてきた。
- 山形県内初 警察官向け認知症サポーター養成講座実施（H26年度）
認知症サポーターステップアップ講座実施（H29年度）

※課題は、担当者が異動しても変わらない関係作り

対応事例（例）

- 吹雪の中、夜通し、20km程離れた市から歩いてきた80代の女性（広域連携）
- 兄弟に会いたいと、真夏にセーター姿で、近隣の町から歩いてきたひとり暮らしの80代女性（広域連携）
- 住み慣れない土地で望郷の思いを募らせ、認知症に関心ない子と暮らす80代男性（支援困難、警察協働）
- 見守りグッズ（カード）を携帯していたことで、一般市民から自宅と包括Cに連絡してもらえた80代女性（地域見守り、ケアマネジメント支援）